

# ミャンマーの文化財保護

西村 幸夫

## 一 文化財保護法制の歴史

ミャンマーの文化財保護の歴史は想像以上に長い。はじめて関連の法律が制定されたのは一八七八年、インド発掘財宝法 Indian Treasures Act である。当時ミャンマーは英国のインド植民地の一部であった。一八七八年といえど日本では古社寺保存法（一八九七年）はおろか、古社寺保存金制度（一八八〇年）ですらできていないころである。おそらくアジアでもっとも早い文化財保護関連法のひとつである。

その後、一九〇四年には包括的な古代記念物保存法 Ancient Monuments Preservation Act が制定され、一九三二年の同改訂法を経て、今日の根拠法である一九五七年古物法 Antiquities Act に至っている（同法も一九六二年に若干改訂されている）。

## 二 文化財保護関連の部局

古物法は全二八条からなり、主として考古学上の遺物と遺跡を保存することを目的としている。遺跡の発掘はミャンマー考古学局のもとに一元化され（第八条）、遺物の禁輸（第七条）、大統領に付与された遺物包含地の強制収容権（第九条）、保存の対象となる古物の登録制度（第一条）、私権の制限に対する損失補償制度（第二条）などを定めている。興味深いのは、考古学局は保存基金を管理し、それを一般の寄付の受け皿とすることを定めていること（第一〇条）、考古学局は登録されたモニユメント周辺に新たな建物を建設することを禁止できること（第二〇条）などを定めていることである。

文化財保護を担当しているのは計画財政省考古学局である。ヤンゴンの本省を中心に職員数は二六一人を数えている。全七課からなり、碑

文書籍・建造物・保存・古物の主要四課と、総務・経理・文書の事務三課から構成されている。一九八八年の軍事クーデター以降、トップには軍人が派遣されており、現在、事務局長にはタン・マウン大佐が就いている。

五年ほど前、考古学局はそれまでの古果、文化省から現在の計画財政省へ移管されている。このころ、文化財は貴重な文化財であるよりもまず、有力な観光資源であると考えられているようである。

現在ミャンマー入国者は国内旅行計画のなかにバガン遺跡が含まれていると、入国審査時に一〇米ドル（二泊まで、二泊を超えると一泊ごとに三米ドル）の入場料（？）を支払わなければならないことになっている。一人あたり年間GNPが実勢換算で一〇〇米ドルに満たない後発途上国で、これはかなりの額である。また実際に、歴史的資産を生かした観光開発は、ミャンマー

のような周回おくれのトップランナーには、近い将来に実現可能な現実的な開発戦略でもあるのだ。

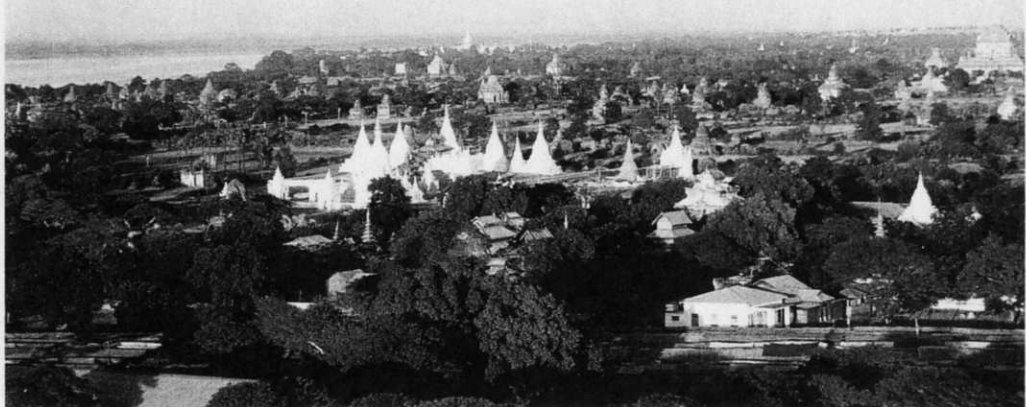
## 三 バガンの巨大遺跡

ミャンマーの文化財保護の目玉は何といってもバガン遺跡である。十一世紀から十三世紀にかけて隆盛を誇ったバガン王国は、イラワジ河中流域に二〇〇〇を超す仏教建築物を今日に伝えている。アンコール・ワットと並び称される大規模遺跡である。現存する遺跡の大半は煉瓦造のパゴダ、仏堂、経蔵、受戒堂、洞窟寺院などで、このほか主として十九世紀の木造僧院が一五件ほど現存している。

一九七五年にこの地方を襲った大地震でバガンの遺跡は大きな被害を被ったが、市民の寄付と政府の特別予算によって修復が進められてきている。

考古学局は現在では年五、六件を選び、限られた予算ながら、修復を推進している。一九九一年一月現在、六つの遺跡の修復とバガン周辺の濠の復原が進められている。

また、バガンの保全整備に関してはホテルおよび観光公社（HTC）も独自にマスタープランを作成しており、これと地元自治体の地域整備計画、考古学局の修復計画などが重複して立案されており、複数の計画間の調整をとることが必要になってきている。



タビイニユ寺院からみたバガン遺跡  
六×一〇キロメートルの地域に二二三〇もの遺跡が確認されている

## 四 外国からの援助

外国からの援助も有力な文化財保護策で、現在もっとも進んでいるのは、ユネスコと国連開発計画（UNDP）の共同によるミャンマー文化遺産保全プロジェクトである。これは、重要遺跡の写真撮影、遺跡の構造補強、壁画及びスタッコ彫刻の保存、バガン遺跡目録の出版、バガン遺跡保存のためのハンドブックの出版、バガン遺跡保存マスタープランの作成など、八項目の事業を並行して進めるもので、一九九〇年から三か年の計画として進行中である。ユネスコとUNDPの共同によるミャンマーの文化財保護プロジェクトはこれが四件目である。

日本からの文化無償援助も現在計画中だと聞いている。一日もはやく実質的な技術援助、資金援助がなされることを期待せずにはおれない。関係者の御尽力をお願いしたい。

（にしむら ゆきお）

東京大学助教